

リモートワークなどの仕事をしながら、大雪山国立公園をはじめとして東川町が有する自然環境や文化、歴史等に親しむワーケーションモニターツアー（ひがしかわ観光協会主催、アグリテックが運営）が1月11日から1週間行われた。環境省の国立公園・温泉地等での滞在型ツアー・ワーケーション推進事業の一環。環境省



新感覚の雪上自転車と話題の「スノースクート」を楽しむ参加者ら

東川で暮らすように仕事を楽しむ ワーケーションモニターツアー

としては、大雪山国立公園の恵まれた自然を保護するだけではなく、コロナ禍での観光施設の利用促進、観光事業者の新たな顧客獲得への期待を込めて企画したものだ。

このモニターツアーは大雪山国立公園エリアの温泉施設（旭岳温泉湧駒荘か天人峡温泉しきしま荘のいずれか）で3泊、東川町内の市街地にある1棟貸しのゲストハウスで3泊しトータルで6泊7日のワーケーションを楽しむというもの。首都圏に住む大手企業の社員やフリーランスのグラフィックデザイナーの家族や同僚ら3組が参加した。

滞在中は基本的に自由にワークスタイルに合わせた過ごし方をそれぞれしてもらい、その合間に東川ならではの体験プログラムを満喫。新感覚のスノースクートアクティビティとして話題の雪上自転車「スノースクート」体験は人気で、参加者からは「東川町は空港にも近く、オンとオフを切り替えられ自然が豊かな好立地」などと感想が寄せられた。



テントの中でリモートワークというのも北海道ならではの味わい